

学校教育目標	「自ら学ぶ生徒」「心豊かな生徒」「たくましい生徒」
目指す学校像	「学びの学校」「落ち着いた学校」「信頼される学校」

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者（教職員を除く）	5 名
事務局（教職員）	4 名

領 域	学 校 自 己 評 価			年 度 評 価 （ 令 和 8 年 2 月 1 8 日 現 在 ）		
	年 度 目 標			年 度 評 価 （ 令 和 8 年 2 月 1 8 日 現 在 ）		
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
組織運営	・職員会議等で全員が積極的に自分自身の考えを述べられる場になるような雰囲気づくりを通して、学校運営に積極的に関わる。 ・不登校支援について、不登校等により自宅でオンライン学習をした場合出席扱いとなるようにしたが、一人一人に応じた学びの評価で課題がある。学校に登校できていない生徒が一定数いることから、学校とつながるための居場所（ほっとルーム）を作り、運用していく。	○若手、ベテランそれぞれの良さを生かし、チーム八幡木中としてスピード感をもった機動的な組織を確立する。	○若手研修会を実施する。ベテランを講師として専門分野や働き方の講話を実施し、共に学校運営に参画する意識をもたせる。 ○道徳の市委嘱本発表を通して、全教職員で生徒の道徳力を高める。	○教職員とのコミュニケーションを基本に、月1回の若手研修会やミニ研修会等を実施し、教育公務員としての自覚を高めた。 ○「道徳の八幡木中」として機運を高め、学校公開日で道徳の授業を全学年で実施した。	A	・不登校支援では、学校とつながるための居場所として、教室復帰をゴールとしない「ほっとルーム」を開設したが、一人一人に応じた学びの評価で課題がある。支援員が配置されなくても自走し運用していく予定。職員会議等で全員が議案に対し、積極的に自分自身の考えを述べられる場の設定とそれができる雰囲気づくりが望まれる。
		□不登校生徒やその保護者と積極的につながり、信頼関係を構築して社会的自立を促していく。場ヶ谷地区の教育相談におけるセンター機能として、ほっとルームの運用を進める。	□ほっとルームの運用を進めるにあたり、地域人材を登用し支援員との連携を積極的に行う。 □不登校生徒とその保護者対象の教育相談会を各学期に行い、保護者を孤立させることなく、つながっていく。	□地域人材による不登校支援センターとしてのとまりホルームを1月に開設した。日々の適切な対応で不登校生徒支援率100%達成。 □場ヶ谷地区の不登校児童生徒及び保護者の教育相談会を2回実施し、つながりを持った。	A	
		◇	◇	◇		
		◇	◇	◇		
教育課程	・国や県の学力調査結果分析を全教職員で行う。 ・生徒の学力を伸ばした教科の授業をもとに、よい取組を学校全体の取組に広げることを通して、生徒の学力を組織的に高めていき、八幡木中学力向上のスタンダードを作る。	○学習に高い意識を持っている生徒とそうでない生徒の差を小さくするため、授業が楽しい自分もやればできるという経験在授業中に味わわせる。	○授業中は、生徒同士の話し合い学び合い活動等を積極的に取り入れるなど方策を示し、学ぶ意欲を高める。 ・学習の仕方を指導したり、ICTを活用した学び直しの機会を設けて、一人一人の学習状況の改善を	○数学で昼休みに生徒の学び合いを取り入れた学習機会を設け、教科担当と学年職員で基礎定着の成果を挙げた。定期テスト前の補習や冬休みに3年生対象の学力アップ教室を実施し、一人一人の学習状況の改善を図った。	A	・国や県の学力調査結果から、生徒の学力を伸ばした教員の授業を見て指導技術を学ぶ機会を設定し、個人の教員のよい取組を学校全体の取組に広げることを通して、生徒の学力を組織的に高める。学習のPDCAサイクルを身に付けさせるため、学習計画の立て方やテスト後の学び直しを大切にする八幡木中の学力向上スタンダードを作っていく。
		□チーム八幡木中で市委嘱研究において道徳の研究を進め、授業力の向上を図り生徒の道徳力を高める。	□先進校の授業参観や指導者を招聘した授業改善に取り組む。市委嘱研究として、道徳の授業で発問を吟味するなど指導方法の工夫改善を全ての教科等に応げる。	□道徳の授業で発問を吟味するなど指導方法の工夫改善を進めた。話し合い、学び合い活動等を積極的に取り入れるなど方策を示し、改善を図った。	A	
		◇	◇	◇		
		◇	◇	◇		
開かれた学校づくり	・学校運営協議会を核として、地域と学校の連携・協働を進めている。課題は、地域の人材を生かした生徒の学びや不登校支援を充実させることである。さらに働き方改革や部活動の地域移行等、学校だけでは解決が難しい問題を行政や地域の力を借りながら行っていく。	○地域と学校が目標を共有し、WIN-WIN関係を築けるように、学校の様々な教育活動について保護者や地域の方に参加していただく。	○ほっとルームの運営に地域人材を活用する。 ○夢ワークの活動場所を増やすため保護者メールやPTA、おやじの会で行事を広める。	○岸川中とまりホルームの本橋様、本校の学校運営協議会委員、民生委員、主任児童委員、保護司、元PTA会長等が運営スタッフとしてとまりホルームが開室した。川口市内の不登校児童生徒とその保護者相談会の継続実施した。	A	・課題は、とまりホルームの運営を次年度以降も継続し、不登校生徒と保護者にとって心地よい居場所にすることである。第一学院高校や地域との連携を進めて地域の人材を生かした生徒の学びや不登校支援を充実させることである。2年夢ワークの活動場所を増やすため、1年職業インタビューでお世話になったおやじの会やPTA執行部等に情報提供を依頼する。さらに働き方改革や部活動の地域移行等、学校だけでは解決が難しい問題を行政や地域の力を借りながら行っていく。
		□学校HPの積極的な更新を行い、保護者・地域に公開していく。	□担当を中心に、各学年や担当の教職員がHPを更新できるシステムを作る。写真撮影を行った教職員がHPにUPする。	□日常の活動状況や行事の様子をHP等を使い広く広報できた。HPの更新やメール配信も積極的に行うことができた。	B	
		◇	◇	◇		
		◇	◇	◇		

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和 8 年 2 月 2 0 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・八幡木中の道徳の授業を参観すると、大人になっても大事なルールを意識して、生徒同士でディスカッションしていることが良かった。	
・	
・	
・八幡木中で次年度準備をしている学習計画を立てて定期テストに取り組むことは、素晴らしい。一般社会で仕事ができる人は、段取りや計画を立てることを一番大事にしている。中学時代に教えて、学習以外でも計画性をもって取り組むことのできる生徒を育てて欲しい。	
・現在中学校を会場として英検や漢検を実施していないが、案内は学校から生徒にして欲しい。	
・	
・不登校生徒や保護者の居場所としてのとまりホルームを、次年度以降も継続して設置して欲しい。（回答）次年度以降の運営について、3月18日9時よりスタッフと管理職で打ち合わせをする予定。 ・とまりホルームの構造上、隣のステップルームに声が響き学習に支障があった。	
・とまりホルームは、いつ来てもよい、誰が来てもよい、しゃべらなくてよい、それが生徒にとっての居心地のよさになる。スタッフの心構えとして、三たがり（関わりたがり、知りたがり、教えたがり）を気を付けたい。	
・	

教職員の資質向上	・ワークライフバランスに対する意識を持つ教員が増えてきている。健康第一に考えが定着し病休者はゼロである。引き続きワークライフバランスに関する研修等をもち、オンとオフを切り替えて自分自身の時間をもつことが、よい指導につながっていくことを理解させていく。	○教師として生徒を伸ばすことのできる力を身に付ける。外部講師を指導者として教員以外の社会を学び、社会人としての素養を身に付ける。	○教員同士で授業の参観を行うとともに、校内研修等で様々な事例を用意し、広い視野で社会人としての素養を学ばせる。	○教員が互いの授業を見合う機会や他校の優れた実践を見る機会が増えていく。授業参観後、参観者が若い教員に指導をする機会が増えた。若い教員のICT活用方法をベテラン教員が学ぶ機会になった。	B	・ワークライフバランスに対する意識を持つ教員が増えてきている。健康第一の考えが定着したが、病休者を2名出してしまったことが残念である。引き続きワークライフバランスに関する研修等をもち、オンとオフを切り替えて自分自身の時間をもつことが、生徒へのよい指導につながっていくことを理解させていく。	・今年度の不登校生徒数といじめの認知件数について教えて欲しい。(回答) 2月20日現在、不登校生徒数は33名、いじめ認知件数は18件である。
		□様々な経験をし、指導の幅を広げるためにも、ワークライフバランスを考慮し、視野を広げる時間を作る。	□管理職からの一方的な時間削減ではなく、ボトムアップの改革を行う。	□先輩から若手への助言をもとに、健康第一に、時間を意識した勤務を進めた。今年度より下校時刻を16時50分にしたこと、学期末に5時間授業を1週間設けたことで、時間のゆとりができて働き方の改善を進めた。	B		
		◇	◇	◇			
施設・設備等の管理	・第1校舎トイレの改修が2年計画で、R7年度は西側トイレ改修を夏休みから2学期にかけて実施予定。大規模な修繕が必要な場所であるグラウンド改修、ほっとルームの整備、給食調理室のエアコン設置については、行政に強く働きかけていく。	○老朽化が激しい箇所、特にグラウンド改修、ほっとルームの整備に見通しを付ける。	○校内巡視を行い、老朽化による危険箇所の早期発見を行うとともに、関係各課、業者と折衝しながら、改善策や対応策を検討する。	○旧金工室をほっとルーム、教育相談室、スタッフルームに改修し運用した。生徒用トイレ改修が次年度以降に延期した。代わりに業者によるトイレのクリーニングと換気扇の設置を行った。計画的に素早い修繕を徹底し事故ゼロ。	B	・川口市の都合で第1校舎トイレの改修が延期となった。R8年度は工事ができるよう行政に強く働きかけていく。今後大規模な修繕が必要な所はグラウンド改修、給食調理室のエアコン設置、備蓄倉庫の移動である。	・備蓄倉庫の移動場所は校舎内か、外に専用倉庫を設置するのか、川口市に確認して欲しい。
		□	□	□			
		◇	◇	◇			
							・川口市としてクラウドファンディングで改修できないのか。
							・